

平成26年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」第2回「自然観察」（テーマ：自然）

□実施日時 平成26年7月29日（火） 9時45分～16時15分

□受講者数 22名

□実施場所 秩父多摩甲斐国立公園 御岳山、御岳ビジターセンター

□実施内容

【午前】

1 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局（研究所）から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局環境政策課（企画調整係主事 武元）から開講挨拶等



開催挨拶

2 ゲストティーチャーからの講義及び実習

（ゲストティーチャー：環境省環境アドバイザー 山室京子、六車貴美子）

長年、自然観察会や環境学習にたずさわって来たゲストティーチャーから、御岳山の豊かな自然の中で、自然観察会の基礎知識とその体験を聞きながら、一緒に自然観察会を体験し、また、子供たちが特に興味をもつネイチャーゲームから、自然の中に人工物を隠すことによって、自然との関わりを考える「カモフラージュ」を、実際に生徒になったつもりで参加し、環境教育の手法を実体験した。



出発前、それぞれの班に別れ、ゲストティーチャーからのお話



御岳山の自然を活用した、観察会。山頂に向かいながら登山道での観察

ネイチャーゲーム「カモフラージュ」



人工物でも自然の中にあると意外と見つけにくい



見つからない。一生懸命探す参加者



ネイチャーゲームのまとめ

【午後】

3 環境学習プログラム「自然に親しむプログラム」の紹介及び実習

(講師：特定非営利活動法人 環境学習研究会理事長 谷村春樹)

(1) 「環境学習の意義」について

「子供は実際に物事を体験する中で理解し、気づき、学んで成長する。しかし、現代の子供たちは、遊びや地域との関わりが希薄であり、様々なことを体験的に学ぶ機会が少なくなっている。このため、学校教育の場で、体験に基づき子供の感性を伸ばすことが、昔と比べ非常に重要性となっている。環境学習もその一環であり、『自然は、人間やすべての生き物のいのちの源である』ということ、実際の体験と気づきを通じて、子供の心の中に落とし込むことが大切である」こと等の説明があった。



御岳ビジターセンターレクチャールームでの講義

(2) 「自然に親しむプログラム」プログラム紹介

① 「葉っぱ合わせ」概要

さまざまな視点からの観察をととして子供の感性を養うと共に、自然への興味・関心を高め、身近な自然の多様性や季節の変化を知ることを狙いとしたプログラム。

- 2枚ずつ用意しておいた5種類の木の葉っぱについて、どの葉とどの葉が同じ木の葉っぱか、色や形、手触り、厚さ、におい等をよく調べて同じ葉っぱを探す。なぜ同じ葉っぱだと判断したのか、気づいた点などを発表。葉っぱをよく観察し、スケッチや、フィールドで葉がそれぞれどの木の葉っぱか探し、木が分かったら、葉っぱだけでなく木全体についても観察をおこなう。
- 木の名前の由来について調べたり考えたりすることも、関連学習として有意義である旨の話があった。



「葉っぱ合わせ」プログラム解説

②その他のプログラムの紹介

「自然発見ビンゴ」、「秋の宝物さがし」、「冬芽拡大図鑑」の紹介を行った。

(3) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での取り上げ方や各学校で実施した関連事例等について、受講者が一人ずつ発表し、講師がコメントをして、受講者で情報を共有した。



まとめ発表・情報交換



各班ごとにまとめ



主な発表

- ・ネイチャーゲームを実際に実地体験できたことは大変よかった。
- ・すぐ授業で活用できそう。
- ・感性を働かせることの重要性がわかった。

4. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後解散